

大規模災害時廃棄物対策北海道ブロック協議会
道央エリア分科会 議事要旨

1. 開催日時

令和 8 年 7 月 22 日（水）10:00～12:00

2. 開催場所

浦河町総合文化会館 第三研修室

（オンライン併用）

3. 議題

（1）第 22 回ブロック協議会の開催結果

（2）令和 7 年度各ワーキンググループの検討結果

（3）災害廃棄物処理に関する情報提供

（4）検討事項

- ・エリア内の災害廃棄物処理に係る課題検討
- ・災害廃棄物処理計画策定状況について
- ・エリア分科会の代表市町村及び代表振興局の選出

（5）その他

4. 議事

（1）第 22 回ブロック協議会の開催結果について

- ・事務局より第 22 回ブロック協議会の開催結果について説明した。
- ・特段の意見交換なし。

（2）令和 7 年度各ワーキンググループの検討結果について

- ・事務局より令和 7 年度の各ワーキンググループの検討結果について説明し、意見交換が行われた。
- ・令和 7 年度検討事項から、今後の進展について意見が挙げられた。
- ・自治体間の連携を図るために、現状ではまず災害廃棄物処理計画の策定に重きを置いている段階であると説明された。

（3）災害廃棄物処理に関する情報提供

- ・事務局より災害廃棄物処理に関する情報提供について説明した。
- ・特段の意見交換なし。

(4) 検討事項

- ・事務局より災害廃棄物処理計画策定状況とエリア内の災害廃棄物処理に係る課題検討、エリア分科会の代表市町村及び代表振興局の選出について説明した。
- ・特段の意見交換なし。

(5) その他

- ・特段の意見交換なし。

【意見交換】

(1) 第22回ブロック協議会の開催結果について

(意見等なし)

(2) 令和7年度各ワーキンググループの検討結果について

○ 民間団体

各ワーキンググループのメンバー構成を教えてください。また、P3「仮置場ワーキンググループ」に記載があるペストコントロール協会について、どのような連携を想定しているのか教えてください。最後に、令和7年度に検討した結果について令和8年度、令和9年度にどのように生かしていくのか。例えば、P5 自治体との情報共有に記載の「被災リスクの大小がある市町村間で意見交換が必要では。」と意見があるように、胆振東部地震の時に苫小牧市だけでは可燃物の処理が間に合わなかったのも、他の自治体に連携を依頼したが協力いただけなかったことがある。自治体が連携し処理場の安定を図ることが、災害廃棄物処理では最も重要だと思っている。運搬する立場としては、どれだけ車を集めても処理場が安定していなければ意味がなくなってしまうので、自治体のクリーンセンター関係の横の連携は大事だと思う。最近、可燃ごみ施設のクリーンおしまで火災が発生して他の処理施設がごみを受け入れていたが、まさに横の連携が取れたことにより上手くコントロールできた事例だと思う。災害廃棄物の時はこの規模が大きくなるのかと思っている。このような課題や令和7年度あがった課題を令和8年度のワーキンググループでは解決できるようにしていきたい。

○ 事務局

令和8年度のワーキンググループのメンバーの選定については、「仮置場ワーキンググループ」は、北海道内の全市町村へ案内をしており9自治体から申し込みをいただいている。

「連携強化ワーキンググループ」は、市町村と民間事業者へ案内をしており3自治体から申し込みをいただいている。「計画策定・改定ワーキンググループ」は、市町村へ案内をしており14自治体から申し込みをいただいている。また、今年度別事業として実施している計画策定支援事業については8自治体から申し込みをいただいている。

ペストコントロール協会については、昨年上がった意見として記載しており具体的にブロック協議会として協議を進めている段階ではない。

○ 事務局

市町村間での横の連携については重要だと認識している。しかし現状は市町村間の調整や話し合いの場を作るための準備ができていない。現状では災害廃棄物処理計画を作成することにまず重きを置いている。災害廃棄物処理計画により市町村の災害廃棄物の発生量

が推計することで自分の市町村で処理できるのかが分かる。処理できない場合にどうするかという連携に関する検討にまだ至っていない。引き続き検討していきたい。

(3) 災害廃棄物処理に関する情報提供
(意見等なし)

(4) 災害廃棄物処理計画策定状況とエリア内の災害廃棄物処理に係る課題検討、エリア分
科会の代表市町村及び代表振興局の選出について
(意見等なし)

(5) その他
(意見等なし)

以上